

(様式1)

視 察 報 告 書

令和5年6月30日

鳥取市議会議長 西村 紳一郎 様

鳥取市議会福祉保健委員会
委員長 星見 健蔵

本委員会は、下記のとおり委員を派遣し、行政視察（調査）を実施したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

1 期 間	令和5年5月22日から令和5年5月24日まで
2 派 遣 先 及び視察 (調査) 内容	<p><岡山県総社市> ○障がい者千五百人雇用事業について</p> <ul style="list-style-type: none">・概要について（条例制定の経緯など）・具体的な取組内容について・効果について・今後の課題等について <p><和歌山県御坊市> ○認知症施策について</p> <ul style="list-style-type: none">・概要について（条例制定の経緯など）・具体的な取組内容について・効果について・課題や今後について <p><兵庫県尼崎市> ○保育士確保の取組について</p> <ul style="list-style-type: none">・背景や取組内容について・保育士・保育所支援センター「あまのかけはし」について・効果について・課題や今後について
3 派 遣 委 員 の 氏 名	星見 健蔵、玉木 裕一、坂根 政代、谷口 明子、 岩永 安子、西村 紳一郎、寺坂 寛夫
4 委 員 会 所 見	別添のとおり
5 参 加 者 所 見	別紙のとおり

所見

<p>岡山県 総社市</p>	<p>●障がい者千五百人雇用事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総社市は平成 19 年から片岡聡一市長となってから現在まで約 19 年間にわたり、片岡市長の非常に強いリーダーシップのもとで福祉王国を築きあげておられる。福祉王国のプログラムを立ち上げられて、強力的に福祉予算を含め、福祉行政施策に取り組みされており、その政策の一部としての障がい者千五百人雇用事業であるが、「障がい者の一生に責任をもつ」という理念のもと、総社デニム事業など工賃向上・社会貢献に取り組み、生活の質の向上や、障がい者が、生きがいやほこりを持てるよう、官民一体で取り組む体制づくりをされており、障がい者が主役のまちづくりに取り組まれるなど、福祉行政の事業推進を図られており、非常に参考となるものであった。 ・「障がい者が主役のまちづくり」はまちを元気にし、経済活動にも好影響を与え、人口増加につながっていた。特筆されるのは、法定雇用の義務の無い 50 人未満の会社が雇用されており、雇用センターのワーカーの努力を感じた。結果が出ることで、PR が浸透し、障がい者雇用の拡大に繋がっていた。 ・枠組みと協働体制を早期に的確に整えたことも最高で条例制定をはじめ、支援センター、就労支援ルーム、障がい者 1,500 人雇用センターなどを次々整備して本気を伝えて巻き込む人を増やした結果ではないかと思う。 ・障害当事者の雇用の継続性、企業のさらなる開拓、働くことができない障害者への支援の在り方など課題はあるが、取り組めることから取り組んでいく、取り組んだらとのが励みになるという実践をお聞きでき、今後の鳥取市での取り組みについて、考えていかなければならないと感じた。 ・目標達成のために、仕組みを、抜本的に見直して取り組み、障がい者一人一人に寄り添い、その方に応じた対応を本市にも取り入れればと思う。 ・雇用、優先調達など個別に考えず、アピールしていくことが大事と思った。
<p>和歌山県 御坊市</p>	<p>●認知症施策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本人視点」の重要性について、どんなことでも重要なことだが、「忘れられがち」になっている現状がある。そういった意味では、「条例」にして、そのことを発信していることの素晴らしさを感じた。鳥取市でも、認知症施策はかなり進んできたが、この根本の理解は進んでいないと感じる。担当者の意識改革、施策や取り組みへの関与など、学んでいきたいと思った。鳥取市に認知症問題の第一人者がいる。鳥取市こそ、もっとこの問題を発展させていかなければならないと感じた。 ・先入観を払拭し、認知症本人さんの視点で施策を進め、条例制定に至ったという事。やはり、本人さん一人一人に寄り添い、その方の幸せを考えての施策推進が大切と感じた。このことは、他

の施策にも通じると思う。どうしても予算の縛りがあることであり、できる限り、一人一人に寄り添った施策、心の通った対応がこれからは重要ではないかと思う。

- ・鳥取市でも、今年4月に「認知症相談安心ガイドブック」には、認知症本人の声が掲載されている。今までにないことであり、今後、対応の変化に注目したい。認知症本人視点で施策がどうなのか、点検チェックが必要であると思った。

- ・本市の認知症希望大使の藤田和子氏と交流があり、アドバイスを受けているとの事であった。御坊市との縁を感じた。

- ・最重要の指針は「認知症・認知症の人への先入観の払拭」である。御坊市の認知症の人が本人たちの言葉でつくった条例を本市も参考としたい。

- ・認知症問題については、一人の人を支援や大切にできないのであれば、誰一人として支援できないこと、市民全体で人を大切にすること、共有することが重要であり、大切なことだと痛感した。

- ・行政が行う住民サービスで一番重要だと感じたのはキーパーソンの存在である。『つなぎ役』行政と当事者を繋ぐそして何よりも現場にしっかり寄り添う（心にまで）職員の熱い想いと行動力が重要であり街づくり人づくりに欠かせないと実感した。

<p>兵庫県 尼崎市</p>	<p>●保育士確保の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県でも似たような取り組みを行っているが、国の保育士の配置基準の低さがもともとあり、各自治体が保育士確保の問題に悩んでいる。尼崎市は、明石市や姫路市などとも近く、保育士の奪い合いの状態が続いており、保育需要の増加での保育施設の建設、保育士確保の課題があり、そのことの対処として中核市でできることに取り組んでおられた。センターの職員も元公立保育所所長経験者であり、保育の専門家が保育士の発掘にあたるのはとても心強いことだと思った。 ・これからの未来を担う子供たちの教育、特に幼児期の教育は、一生のうち一番大切ではないか。未来の日本を考えると、今の保育の質も重要である。充実した保育の為にも、保育士不足では思うような保育も難しいところである。本市においても、尼崎市の取り組み、参考になるところは多いかと思う。しかし、大都市圏の尼崎市と、面積広く、地域格差の大きな鳥取市では違いが大きいのではないか。やはり、一人一人に寄り添った人材確保の取り組みを進め、今回の視察で学んだことをできる限り取り入れ、本市の保育士確保の施策を推進できればと思う。 ・潜在保育士の就職につなげるために、苦労しておられることがわかった。また、少しでも子育てしやすい街で、働きやすい街でと考えるのは全国どこも同じである。考えていかなければならない。 ・公立保育所に勤務する保育士の待遇改善の問題なども苦悩もしておられるようであった。尼崎市と鳥取市ではおかれた条件が違うが、保育士確保の問題、子育て支援の質の向上については同じ課題であることを感じた。
<p>3市共通</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この度新型コロナウイルスが国内で確認されて以来4年ぶりの視察となった。視察先においては統一地方選挙等多忙なところでの受入れ等大変だったと思うが、出迎えから見送りまでこころよくお世話をいただいたことに心より感謝申し上げる次第である。どの視察先も本市として見習うことも多くあった。今後の市政運営に生かせればと思う。